

講義概要

SYLLABUS

令和6年度

1年前期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

講義名	情報処理学
講師	高橋 優基
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間 (講義)
講義目標	コンピュータ活用能力、情報通信ネットワーク活用能力を身につけることを目的とする。授業では、毎時間実際にコンピュータを操作し、その使い方を修得すると同時に、各種アプリケーションソフトを使用して課題を作成する演習を行う。また、表計算ソフトを使用する過程で、各種統計処理の基礎知識も習得できるようにする。
授業計画	内容
第1回	コンピュータの使用方法、情報の保存・管理
第2回	文字入力と文書作成・保存、印刷機能
第3回	表の作成と図形の挿入
第4回	症例レポートの作成方法
第5回	文献を用いた文書作成の演習課題
第6回	計算式と関数の使い方
第7回	データの入力、編集
第8回	データの加工と表の編集
第9回	統計処理、グラフの作成・編集
第10回	スライド作成、印刷機能
第11回	図表・写真・動画の挿入
第12回	特殊効果の設定
第13回	スライド作成の演習課題
第14回	ビジネスメールの作成
第15回	ビジネス文書の作成
履修上の注意	コンピュータは、見たり聞いたりしているだけでは上達しないので、自分で操作して慣れることが必要である。
成績評価	授業中に作成する課題の提出状況 (40%)、完成度 (60%) をもって評価する。単位認定者：高橋
テキスト	
参考図書 その他	配布資料

講義名	物理学
講師	加藤 巡一
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間 (講義)
講義目標	我々が日常的に観察したり体験したりする力と運動、あるいは医療機器など利用する道具の作用秩序を理解するためには、その背後にある物理現象を十分に理解する必要がある。そのため本講義では運動力学、波動力学、熱力学、電磁気の4分野をカバーし、「エネルギー」と「場」をキーワードとして基礎的な解説を行い、演習を通して物理的な物の見方、考え方を皆さんに会得してもらう。
授業計画	内容
第1回	力のつりあいとベクトル、摩擦力
第2回	等速度運動と等加速度運動、加速度・距離・時間
第3回	運動の第一法則・運動の第二法則の意味と活用
第4回	仕事と仕事率、位置エネルギーと運動エネルギー
第5回	運動量と力積、運動量保存の法則
第6回	円運動、角速度・向心加速度・向心力・周期
第7回	モーメントと重心・ディメンジョン (次元) 表記
第8回	横波と縦波、波速・波長・振動数・周期
第9回	熱と温度、絶対温度、ボイル・シャルルの法則
第10回	融解熱と気化熱、熱力学の第一・第二法則
第11回	コンデンサーの容量・接続・エネルギー
第12回	電力と電力量、熱量と電力、電流と磁界
第13回	交流・電磁波・X線の利用、放射線
第14回	原子力発電
第15回	問題演習・まとめ
履修上の注意	講義と演習
成績評価	授業態度、期末試験を総合的に判断する。単位認定者：加藤
テキスト	「そこが知りたい物理学」 (共立出版)
参考図書 その他	

講義名	生涯学習論	
講師	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、生涯学習論を講義する。
学年・期	1年前期.2単位.30時間（講義）	

講義目標 理学療法専門職として生涯にわたり自己研鑽を続け、知識・技術の向上に努める意義を理解する。また、主体的な学びが生涯学習に繋がると考え、学習の実践方法を学ぶ。

授業計画	内容
第1回	生涯学習の歴史
第2回	生涯学習の意義
第3回	生涯学習支援
第4回	文献の活用方法
第5回	批判的思考
第6回	自己研鑽の必要性
第7回	学習習慣の定着化
第8回	課題の明確化
第9回	知識の統合
第10回	知識の定着化
第11回	知識の活用
第12回	学習計画の立案
第13回	学習成果の評価・活用
第14回	キャリアパスの概念と活用、卒後のキャリアデザイン
第15回	研究の必要性と意義

履修上の注意

成績評価	課題レポート（30%）、期末試験（70%）により総合的に判断する。単位認定者：日良
テキスト	
参考図書 その他	

講義名	医学英語
講師	前田 剛伸
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間 (講義)

講義目標 筋骨格系や神経系などの基本用語の英語表現を習得する。英文を和訳して、その内容を理解する。

授業計画	内容
第1回	医学英語とは (運動と身体、リハビリテーション)
第2回	人体の基礎知識 (断面と方向、関節可動域、主要関節と部位)
第3回	人体の基礎知識 (断面と方向、関節可動域、主要関節と部位)
第4回	人体の構造について (骨格系、関節、関節の種類)
第5回	人体の構造について (神経系、中枢・末梢神経系)
第6回	人体の構造について (神経系、自律神経系・副交感神経系)
第7回	人体の構造について (筋肉系、表層筋)
第8回	人体の構造について (筋肉系、筋肉の種類、靭帯及び腱)
第9回	英文和訳
第10回	骨折とリハビリテーション
第11回	腰痛とリハビリテーション
第12回	関節炎とリハビリテーション
第13回	脊髄損傷とリハビリテーション
第14回	脳卒中とリハビリテーション
第15回	パーキンソン病とリハビリテーション

履修上の注意 授業内容の理解度を把握するため、授業内で確認テストを実施します。

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：前田
テキスト	「リハビリテーションの基礎英語 第3版」 (メジカルビュー社)
参考図書 その他	配布資料

講義名	医療倫理学
講師	伊藤 望美
学年・期	1年前期, 2単位, 30時間 (講義)

講義目標 医療および理学療法、理学療法研究における倫理ならびに倫理原則について理解する。理学療法士としての使命、役割と責務を理解し、対象者の尊厳を基軸とした理学療法の提供・発展に関わる素地を養う。

授業計画	内容
第1回	倫理を学ぶ目的・・・生涯学習への準備 (キャリアパス)
第2回	自分を見つめる・・・生涯学習への準備 (キャリアデザイン)
第3回	倫理規範・・・功利主義 (ジェレミー・ベンサム)
第4回	倫理規範・・・功利主義 (ジョン・S・ミル)
第5回	倫理規範・・・実存主義 (ジャンポール・サルトル)
第6回	倫理規範・・・カント主義 (イマヌエル・カント)
第7回	倫理規範・・・徳倫理学 (ロザリンド・ハーストハウス)
第8回	論理的思考力を身につける (グループ討論)
第9回	生命倫理/医療倫理
第10回	医療倫理の倫理原則
第11回	自己決定権・・・古代から現在の医療に関する歴史的背景
第12回	理学療法を取り巻く倫理的課題の検討 (自己危害)
第13回	理学療法を取り巻く倫理的課題の検討 (他者危害)
第14回	職業倫理・・・理学療法士職業倫理ガイドライン
第15回	理学療法士の倫理観・・・理学療法の質の保証

履修上の注意 ワークショップ形式の講義です。積極的な姿勢を期待します。

成績評価	レポート課題 (30%)、期末試験 (70%) により総合的に判断する。単位認定者：伊藤
------	--

テキスト

参考図書
その他 配布資料

講義名	人間関係学
講師	伊藤 望美 理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、人間関係学を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、30時間（講義）
講義目標	未知の課題に対して多様な情報を収集し、倫理的、道徳的、科学的根拠に基づいた創造性をもった課題解決能力の素地を養う。人間性豊かな自己形成を軸に心理・社会的背景を踏まえながら、人々と相互に信頼された関係を築き、個々が意思決定する。お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な人間関係を築くコミュニケーション能力を養う。
授業計画	内容
第1回	人間関係論とは
第2回	理学療法士養成校の学生に必要なコミュニケーション
第3回	「自分を理解しよう」（自己概念）
第4回	コミュニケーション力を育む（価値観）
第5回	コミュニケーション力を育む（わかちあう・こたえる）
第6回	コミュニケーション力を育む（気づく）
第7回	コミュニケーション力を育む（話す・きく・観る）
第8回	社会人のマナーとしてのコミュニケーション
第9回	社会人としての総合力を身につける（論理パズル）
第10回	アサーショントレーニング（3つのタイプの自己表現）
第11回	アサーショントレーニング（DESC法）
第12回	臨床現場におけるリフレーミング
第13回	認知症の方とのコミュニケーション
第14回	医療面接における基本的知識
第15回	医療面接での対話のしかた
履修上の注意	ワークショップ形式の講義です。積極的な姿勢を期待します。
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：伊藤
テキスト	「理学療法評価を学ぶ」（編集工房ソシエタス）
参考図書 その他	配布資料

講義名	健康科学	
講師	藤原 聡	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして健康科学を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 理学療法士は、対象者の健康に関連した諸課題に向き合うことが求められる。その基本をなす健康とは何かについて学ぶ。また、その健康と社会環境がどのように関係しているのかについて学ぶ。

授業計画	内容
第1回	健康の定義と概念について
第2回	健康問題の発生要因・疾病予防と生活習慣病の増進
第3回	人の心身と健康を知る（身体と健康、心と健康）
第4回	人の心身と健康を知る（遺伝と健康、適応と健康）
第5回	健康の基礎（環境と健康、栄養と健康）
第6回	健康の基礎（運動と健康、生活習慣と健康）
第7回	社会と健康（社会と健康、集団と健康）
第8回	社会と健康（経済と健康、法と健康）
第9回	科学技術と健康（情報技術の革新と健康）
第10回	科学技術と健康（交通・輸送の革新と健康、住宅と健康）
第11回	健康観と健康に関する社会のしくみ
第12回	災害時のリハビリテーションとは
第13回	災害時のリハビリテーションにおける支援の目的と意義
第14回	災害発生時の対応
第15回	災害からの復旧・復興時の対応

履修上の注意 講義内容により講義教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること。

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：藤原	
テキスト	「テキスト健康科学 改訂第2版」（南江堂） 「災害リハビリテーション標準テキスト 第2版」（医歯薬出版）	
参考図書 その他		

講義名	解剖学 I (骨格、筋肉)	
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約26年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。
	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、60時間 (講義)	

講義目標 骨格系、関節と靭帯、筋系、神経系について、その成り立ちや構造、役割を理解する。

授業計画	内容	
第1回	解剖学用語、組織	(日良)
第2回	骨格系 (頭蓋骨)	(日良)
第3回	骨格系 (脊柱)	(日良)
第4回	骨格系 (胸郭)	(日良)
第5回	骨格系 (上肢帯)	(日良)
第6回	骨格系 (自由上肢骨)	(日良)
第7回	骨格系 (下肢帯)	(日良)
第8回	骨格系 (自由下肢骨)	(日良)
第9回	関節と靭帯 (総論)	(日良)
第10回	関節と靭帯 (脊柱)	(日良)
第11回	関節と靭帯 (上肢帯)	(日良)
第12回	関節と靭帯 (自由上肢骨)	(日良)
第13回	関節と靭帯 (下肢帯)	(日良)
第14回	関節と靭帯 (自由下肢骨)	(日良)
第15回	筋系 (上肢帯の筋)	(日良)

履修上の注意 学習の定着度を計るために口頭試問 (任意) を予定しています。

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸	
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 (医学書院) 「プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版」 (医学書院)	
参考図書 その他		

講義名	解剖学 I (骨格、筋肉)	
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約26年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。
	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、60時間 (講義)	

講義目標 骨格系、関節と靭帯、筋系、神経系について、その成り立ちや構造、役割を理解する。

授業計画	内容	
第16回	筋系 (上腕の筋)	(日良)
第17回	筋系 (前腕・手部の筋)	(日良)
第18回	筋系 (下肢帯の筋)	(日良)
第19回	筋系 (大腿の筋)	(日良)
第20回	筋系 (下腿・足部の筋)	(日良)
第21回	筋系 (体幹の筋)	(日良)
第22回	筋系 (顔面の筋)	(日良)
第23回	神経系 (総論：神経系の区分と構成、髄膜と脳室)	(嘉戸)
第24回	神経系 (脊髄の外形、横断面)	(嘉戸)
第25回	神経系 (脳幹：延髄、橋、中脳)	(嘉戸)
第26回	神経系 (小脳の外形と区分、小脳脚の内部構造)	(嘉戸)
第27回	神経系 (間脳・大脳半球)	(嘉戸)
第28回	神経系 (大脳半球)	(嘉戸)
第29回	神経系 (上行性神経路、下行性神経路・脊髄神経)	(嘉戸)
第30回	神経系 (脳神経・自律神経)	(嘉戸)

履修上の注意 学習の定着度を計るために口頭試問 (任意) を予定しています。

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」 (医学書院) 「プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版」 (医学書院)
参考図書 その他	

講義名	生理学 I
講師	菅野 武史
学年・期	1年前期, 2単位, 60時間 (講義)

講義目標 人体の機能がどのように調節されているかについて理解する。生理学 I では、骨格筋収縮、運動調節、感覚などの動物機能を中心に理解する。

授業計画	内容
第1回	生命現象と人体
第2回	浸透圧、水分、体温
第3回	細胞の構造と機能
第4回	静止電位の発生機序
第5回	活動電位の発生機序
第6回	神経の興奮伝導
第7回	自律神経系の機能
第8回	自律神経系の機能
第9回	神経筋接合部の興奮伝達
第10回	中枢神経系の興奮伝達
第11回	骨格筋の興奮収縮連関
第12回	筋収縮力学
第13回	骨格筋線維の種類
第14回	心筋の興奮収縮連関
第15回	平滑筋の収縮、骨の形成と吸収

履修上の注意

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：菅野
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版」 (医学書院)
参考図書 その他	

講義名	生理学 I
講師	菅野 武史
学年・期	1年前期, 2単位, 60時間 (講義)

講義目標 人体の機能がどのように調節されているかについて理解する。生理学 I では、骨格筋収縮、運動調節、感覚などの動物機能を中心に理解する。

授業計画	内容
第16回	中枢神経系の機能と反射弓
第17回	伸張反射
第18回	様々な反射 (自原性抑制、脳幹反射)
第19回	脳幹網様体の機能
第20回	小脳の機能
第21回	視床および視床下部の機能
第22回	大脳皮質の機能局在
第23回	随意運動とその下行路
第24回	脳波および覚醒と睡眠
第25回	大脳基底核および辺縁系の機能
第26回	感覚の一般的性質
第27回	体性感覚
第28回	視覚
第29回	聴覚、平衡感覚
第30回	味覚、嗅覚

履修上の注意

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：菅野
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版」 (医学書院)
参考図書 その他	

講義名	臨床心理学
講師	森本 兼司 神経科・心療内科病院で心理カウンセラー／精神保健福祉士として約36年の勤務経験がある。その経験を活かして、臨床心理学を講義する。
学年・期	1年前期、1単位、30時間（講義）
講義目標	本講義では、臨床心理学の理論を学ぶことを通じて、自己や他者理解を深めるとともに、人間のこころと身体の関係や行動を解明し、人への援助や心身の病の治療につなげられる方法を探っていくことを目的とする。
授業計画	内容
第1回	臨床心理学の歴史
第2回	著名な代表的心理学者と業績
第3回	心理アセスメント・・・手法と測定法、心理検査（人格検査）
第4回	心理アセスメント・・・心理検査（知能検査）
第5回	心理アセスメント・・・心理検査（発達検査、認知機能検査）
第6回	心理療法・・・成り立ちと諸技法（行動的介入：条件づけと行動療法）
第7回	心理療法・・・諸技法（内面的介入：催眠療法、精神分析、内観療法、芸術療法）
第8回	心理療法・・・諸技法（心理劇、交流分析、来談者中心療法、集団療法、森田療法）
第9回	障害受容の心理・記憶（認知心理学）
第10回	防衛機制・・・メカニズムと種類、ストレスと防衛機制
第11回	転移・逆転移
第12回	心理の発達・・・ピアジェ、エリクソン、フロイト、ボウルビィ、ハヴィーガースト
第13回	心理の発達・・・乳児期、幼児期、児童期
第14回	心理の発達・・・思春期、青年期、成人期
第15回	パーソナリティ障害、高齢者の心理
履修上の注意	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：森本
テキスト	「リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版」（医歯薬出版）
参考図書 その他	配布資料

講義名	公衆衛生学	
講師	清水 宏泰 河野 令 中山 紳	病院で医師として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。 病院で医師として約21年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。 病院で医師として約29年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。

学年・期 1年前期、1単位、30時間（講義）

講義目標 医療は健康増進からリハビリテーションまでを含む包括的概念であることを認識するとともに、予防医学の重要性を理解する。人間を取り巻く環境問題と疾病の動向およびその予防対策について理解する。

授業計画	内容	
第1回	衛生学・公衆衛生学序論	(清水)
第2回	主な疾病の予防	(清水)
第3回	母子保健	(河野)
第4回	高齢者の保健・医療・介護（老化、健康状態、保健と医療）	(河野)
第5回	高齢者の保健・医療・介護（認知症、介護保険、地域包括ケアシステム）	(河野)
第6回	学校保健	(河野)
第7回	地域保健と保健行政	(河野)
第8回	保健医療福祉の制度と法規	(河野)
第9回	保健統計	(中山)
第10回	疫学	(中山)
第11回	産業保健	(清水)
第12回	環境保健	(清水)
第13回	疾病予防と健康管理	(中山)
第14回	精神保健	(清水)
第15回	国際保健	(清水)

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：清水

テキスト 「シンプル衛生公衆衛生学 2024」（南江堂）

参考図書
その他

講義名	チーム医療論	
講師	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験があり、回復期病棟に必須のチーム医療を経験した。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。
	水流 啓子	病院で看護師として45年の勤務経験があり、看護管理経験者として25年、医療安全管理者10年の経験を活かしてチーム医療論を講義する。
	佐々木 奈緒	施設で介護福祉士として約27年の勤務経験がある。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。
	藤野 由佳	病院等で作業療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。
学年・期	1年前期、1単位、30時間（講義）	

講義目標 リハビリテーションチームに関わる職種の専門性について理解し、多職種連携における理学療法士の役割を理解する。

授業計画	内容	
第1回	地域包括ケアとチーム医療	(日良)
第2回	作業療法概論	(藤野)
第3回	地域における作業療法	(藤野)
第4回	介護保険による住宅改修	(藤野)
第5回	福祉関連機器・用具	(藤野)
第6回	自助具作成のプロセス	(藤野)
第7回	作業療法士が行うレクリエーション	(藤野)
第8回	看護師の役割とスタンダードプリコーション	(水流)
第9回	リハビリテーション実施時に留意すること	(水流)
第10回	医行為と理学療法士が吸引を行える範囲について	(水流)
第11回	喀痰吸引演習（口腔・鼻腔）	(水流)
第12回	喀痰吸引演習（気管カニューレ）	(水流)
第13回	介護職の役割と高齢者の理解	(佐々木)
第14回	チームカンファレンスの重要性	(佐々木)
第15回	事例検討（アセスメント力と背景を読む力）	(佐々木)

履修上の注意

成績評価 評価シートを用いて総合的に評価する。（日良：10%、水流：30%、佐々木：20%、藤野40%）

テキスト

参考図書
その他 配布資料

講義名	社会福祉学
講師	松原 宏樹 地域包括支援センター(センター長)や居宅介護支援事業所(主任介護支援専門員)での勤務経験があるとともに、認知症介護指導者として、認知症介護研修事業(大阪市・兵庫県など)の指導経験を活かして、社会福祉学を講義する。

学年・期	1年前期、1単位、30時間(講義)
講義目標	医療従事者は、日々の業務を通してさまざまな患者(利用者)やその家族の方々と接する。その当事者のなかには、それぞれの生活課題を抱えている場合も多く存在するため、介護保険制度や生活保護制度、障害者に関する各種制度、医療保険などの制度などについて学ぶ必要がある。また、近年では社会福祉の専門職(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士など)とのチームアプローチが欠かせない。そのため社会福祉を学ぶことは大きな意義がある。

授業計画	内容
第1回	障害者福祉の考え方
第2回	障害者福祉(バリアフリー・ユニバーサルデザイン・合理的配慮)
第3回	障害者福祉(障害の社会モデル)
第4回	障害者福祉(条約・法律)
第5回	子ども家庭福祉(児童福祉法、社会的養護)
第6回	子ども家庭福祉(児童虐待防止法、児童観、子どもの権利条約)
第7回	子ども家庭福祉(少子化対策、性別役割分担意識、子ども基本法)
第8回	低所得者福祉(公的扶助、生活保護法、貧困問題)
第9回	低所得者福祉(ひとり親世帯、貧困連鎖)
第10回	高齢者福祉(認知症介護、高齢者虐待防止法、身体拘束)
第11回	高齢者福祉(高齢者虐待、認知症施策)
第12回	高齢者福祉と地域福祉(地域包括ケア、共生、地域共社会)
第13回	家庭支援
第14回	社会福祉の意味と歴史
第15回	社会福祉総論

履修上の注意

成績評価	試験：90点、レポート・ノート：10点(5点×2)を総合的に評価する。単位認定者：松原
テキスト	「コメディカルのための社会福祉概論 第5版」(講談社)
参考図書 その他	

講義名	リハビリテーション概論
講師	黒部 正孝 病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、リハビリテーション概論を講義する。
学年・期	1年前期、1単位、30時間（講義）

講義目標 疾病予防や健康管理における理学療法のあり方について理解する。理学療法士に関わる各種法規ならびに関連職種の資格法について理解する。

授業計画	内容
第1回	リハビリテーションとは
第2回	リハビリテーションの歴史
第3回	障害の歴史
第4回	障害の分類（ICIDH）
第5回	障害の分類（ICF）
第6回	障害受容
第7回	チーム医療
第8回	リハビリテーション関連職種
第9回	リハビリテーションに関連する法律
第10回	医療制度
第11回	介護保険制度
第12回	バリアフリーとユニバーサルデザイン
第13回	車椅子体験
第14回	視覚障害者体験
第15回	第13回・14回に関する発表

履修上の注意 授業内容の理解度を把握するため、授業内で確認テストを実施します。

成績評価 期末試験（90%）、授業での発表（10%）により判断する。単位認定者：黒部

テキスト 「はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは」（南江堂）

参考図書
その他

講義名	理学療法概論	
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約26年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法概論を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 理学療法の概要、歴史、役割、過程、職域、各病期における意義や役割について理解する。理学療法士の職能や教育課程について理解する。理学療法学としての研究について理解する。

授業計画	内容
第1回	理学療法の概要（映像教材で理学療法の実際を確認）
第2回	理学療法の概念と歴史（障害モデル、語源と定義、発展の歴史）
第3回	理学療法士の法律、理学療法士及び作業療法士法についての解説
第4回	理学療法の意義と役割（職能）、各病期における意義と役割
第5回	理学療法の対象（障がいの定義、臨床における理学療法の対象）
第6回	理学療法の方法（理学療法の過程と手段、運動療法と物理療法）
第7回	理学療法士の組織（医療施設の組織と管理、PT協会の組織と活動）
第8回	理学療法士の教育課程（教育理念と目的、教育制度）
第9回	学生にもとめられるもの（クラスのスローガンとしてまとめる）
第10回	関連法規、医療保健分野の理学療法（理学療法の職域1）
第11回	地域リハと理学療法（理学療法の職域2）
第12回	医療事故とリスクマネジメント、個人情報の管理
第13回	記録・報告書の書き方
第14回	E B M（E B P T）、研究法
第15回	第1～14回までのまとめ

履修上の注意 基本的にテキストに沿って授業をすすめるので予習をしておいてください。一部の授業（1・14・15）は映像やプリントを用いて授業をおこないます。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸

テキスト 「理学療法学テキスト I 理学療法学概論 第4版」（神陵文庫）

参考図書
その他

講義名	見学実習		
講師	嘉戸 直樹 日良 葉子 前田 剛伸 実習指導者	伊藤 望美 高橋 優基 黒部 正孝	理学療法士として臨床経験を積み、その経験を生かして、実習指導をおこなう。
学年・期	1年前期.1単位.45時間（実習40時間、自己学習5時間）		

講義目標 医療現場でのリハビリテーションの流れを知り、患者さんや医療スタッフへの接し方や理学療法士の治療現場を見学することで必要な資質を獲得させ、学習に対する動機付けをおこなう。

実習計画	内容
1日目	清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度がとれる。医療職としての心得や職場内におけるルールを守る。
2日目	周囲における自己の存在を意識した言動を行う。実習指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持する。
3日目	共感的態度をもって、より良い人間関係を構築する。積極的に理学療法スタッフや多職種と関わり、良好な関係を構築する。
4日目	他者や指導者の助言などに対して適切に応答する。守秘義務を果たし、プライバシーを守る。
5日目	他者や指導者の助言などに対して適切に応答する。実習施設における多職種連携の展開について見学する。
8つのグループに分け、医療法人社団董会関連施設での見学実習を行う。	

履修上の注意

成績評価 見学実習評価表で定める基準に従って評価し、総合的に判断する。単位認定者：伊藤

テキスト

参考図書
その他 配布資料